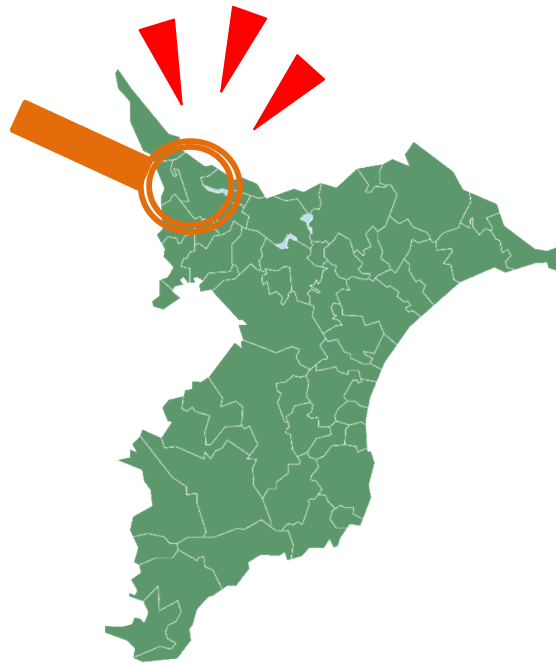


2026・4

柏の景気情報

令和8（2026）年4月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

TEL : 04-7162-3305

FAX : 04-7162-3323

URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報 (令和8年4月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

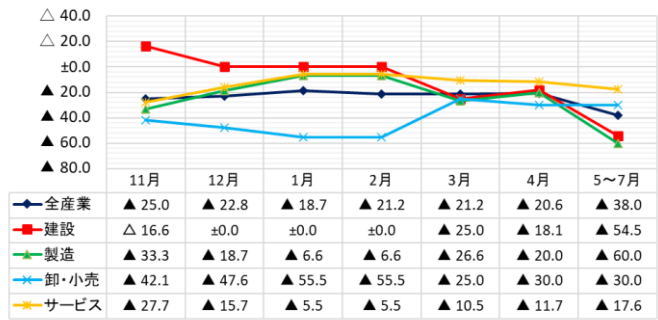
回答期間：令和8年4月20日～令和8年5月7日 調査対象：柏市内173事業所及び組合にヒアリング、回答数63

継続する値上げや物価高が各業界へ直撃。変わらない国際情勢の悪化へ不安の声、警戒感が募る。

4月の全産業合計の業況DI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲20.6（前月水準▲21.2）となりマイナス幅が0.6ポイント減少した。

各業界、国際情勢の悪化により、値上げや仕入れコスト増により、経営を悪化させている。建設業、製造業では、資材や原料が不足しており、受注停止せざるを得ない現状に直面している。その他業界でもコスト増や物価高の影響で景気の上向きは、先になるといった声が多数。

柏の景気情報・産業別業況DI



★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

中東の戦争によるホルムズ海峡封鎖により、石油を精製する時に出る成分のナフサが不足している。その影響で、塩ビ管が不足している。また、塗装の際に使用するシンナーが作れず75%の値上げ。TOTOのユニットバスも受注停止。その他、建築資材のアスファルトルーフィング、防水シート、コーキング材、スタイロフォーム、石膏ボード、サッシ等が値上げ、もしくは受注停止となり建設業界には大打撃となる見通し。（一般土木建築工事業）人手不足のため、昨年並みの仕事量がこなせず、お待ちいただいているお客様に申し訳ないです（畳工事請負・畳製造販売業）



製造業

ホルムズ海峡封鎖の影響で材料メーカーの値上げ攻勢が半端じゃない。医療品容器の生産を止めないようにクライアントとの情報交換が頻繁に行われている。（プラスチック加工）レジン原料の素材の高騰により資材仕入先の変更などが発生。（酒類製造業）



卸・小売業

3月より4店舗新規開店、5月6月も新規開店があり、客数は上昇、買い控えにより点数及び客単価の微減は続いているものの吸収は出来ている。春の賃上げとイラン紛争による電気代高騰への対応（経費の適正化）は進めているがとても吸収できるレベルではない。5月以降は更なる経費の高騰が重くのしかかる、店舗運営上の無駄も見つけにくくなり、猛暑対応への空調経費の上昇も見込まれて採算ベースは苦戦が予測されている。（大型小売店）



サービス業

販管費や内装資材や家電等のリフォーム費用の高騰で賃料改定を適時、心がけている。（不動産賃貸・管理業）ホルムズ海峡封鎖の影響によるナフサ原料の高騰や品切れなどにより、食材高騰に続き消耗品の高騰の影響も出ている。（日本料理）中学1年生の動きが例年に比べてとりわけ遅い。個人的にだけでなく同業者の間でも、景気が回復しているとの実感は無いようだ。（学習塾）公共事業に関する業況に大きな変化はなりが、弊社の課題は、従業員不足と業務効率化である。従業員不足を補うために従業員の追加手続きを検討中で、業務効率化についてはAI活用を含めたソフト技術のレベルアップを進めたいと考えている。（地質調査・地質コンサルタント）

★全国の商工会議所早期景気観測調査（CCI-LOBO）との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲20.6に対し、「CCI-LOBO」が▲21.9で、柏のほうがマイナス幅が1.3ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業、である。

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 20.6	 ▲ 18.1	 ▲ 20.0	 ▲ 30.0	 ▲ 11.7
CCI-LOBO	 ▲ 21.9	 ▲ 24.4	 ▲ 21.3	 ▲ 26.2	 ▲ 14.9
売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 14.2	 ▲ 27.2	 ▲ 6.6	 ▲ 20.0	 ▲ 5.8
CCI-LOBO	 ▲ 4.7	 ▲ 14.6	 ▲ 1.5	 ▲ 7.0	 ▲ 8.9
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 22.2	 ▲ 18.1	 ± 0.0	 ▲ 45.0	 ▲ 17.6
CCI-LOBO	 ▲ 20.6	 ▲ 24.4	 ▲ 19.8	 ▲ 22.8	 ▲ 19.3
仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 73.0	 ▲ 90.9	 ▲ 73.3	 ▲ 70.0	 ▲ 64.7
CCI-LOBO	 ▲ 71.0	 ▲ 79.5	 ▲ 70.1	 ▲ 74.0	 ▲ 68.0
従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 15.8	 45.4	 ± 0.0	 ± 0.0	 29.4
CCI-LOBO	 21.7	 36.4	 10.6	 18.9	 26.7
資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 6.3	 ▲ 9.0	 ▲ 13.3	 ± 0.0	 ▲ 5.8
CCI-LOBO	 ▲ 12.4	 ▲ 8.4	 ▲ 14.4	 ▲ 15.7	 ▲ 10.6

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(4月速報)

調査期間：2025年4月14日～20日

調査対象：全国の326商工会議所が2,455企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、中東情勢を受けた物価高・調達困難化で悪化
先行きは、不透明感強まり
厳しい見方

全産業合計の業況DIは、
▲21・9(前月比▲1・9
ポイント)

卸売業では、設備投資が堅調に推移する中、気温上昇に伴い春物衣料の引き合いが増加し、改善した。一方、建設業、製造業、小売業では、中東情勢の緊迫化に伴うエネルギー・仕入価格の上昇や調達困難化の影響が見られ、悪化した。サービス業もその影響を受けたが、行業需要の拡大等により飲食店を中心に客数が増加し、ほぼ横ばいとなった。

国際情勢の不安定化による利益率の低下やサプライチェーンの混乱による影響は大きく、中小企業の景況感是一段と厳しさを増している。

先行き見通しDIは、▲27・0(今月比▲5・1ポイント)

高水準での賃上げが下支えとなる中、大型連休に伴う消費の拡大が見込まれる一方、足もとの燃料価格の上昇や長引く物価高が、消費マインドを下押しする可能性がある。

また、中東情勢による影響について、政府の対策に期待する声もあるが、影響が長期化した場合、事業の見直しや資金繰りの悪化につながる恐れもある。今後の見通しに対する不透明感が広がっており、先行きはさらなる悪化を見込んでいる。

【建設業】

「労務費高騰や人手不足に加え、中東情勢の緊迫化によるサプライチェーンの寸断が深刻である。ナフサ系の石油製品の供給不安に伴い、住宅設備メーカー各社による新規受注停止や生産調整が相次いでいるほか、プラスチック樹脂や塗料といった基幹資材が調達困難化している」(一般工事業)

「引き続き現場作業員の人手不足が続いている。作業員の高齢化の進展もあり雇用の確保が喫緊の課題」(防水工事業)

「重油や包装材などの価格が急騰しており、今後、他の原材料にも影響が出るのが予想されるが、業界の慣習により、今回の価格転嫁は10月以降となる。価格改定が到底追いつかない中、利益率の低下をどのように乗り切っていくか大きな課題である」(水産食料品製造業)

【製造業】

「塗料など石油由来の原材料が納品されない。現状在庫でしのいでいるが、事態が長期化すると操業を止めなくてはならない」(一般産業用機械)

「石油関連商品の品不足および値上げが著しい。梱包資材にも影響が出ており、売るものがない・材料不足で商品が作れないなど、販売に大きな障害となっており、先行きは

【卸売業】

「中東情勢の緊迫化で直接的に影響を受けるわけではないが、消費者の節約志向の高まりによる購買意欲の減退が懸念材料である」(酒卸売業)

「生鮮食品を取り扱う当店ではゴム手袋が衛生上必須であるが、仕入先が医療従事者優先での供給に切り替えており、入手困難化している」(百貨店)

「当社商品はプライベートブランド商品でプラスチック製品が多いが、原料メーカー各社による一斉値上げ通知や供給制限等により、価格高騰が収まらない。これ以上値上げすると顧客離れにつながる恐れがあり、不安を感じている」(機械器具小売業)

【小売業】

「エネルギー価格の高騰やサプライチェーンの混乱により、利益率が急激に低下している。近隣にホテルチェーンが進出し、価格競争が激しくなっていることから、販売価格への転嫁は困難である」(旅館)

「サービス業」
「行業シーズンとなり、スポーツ大会等の開催に伴ってお弁当の販売量が増加している」(飲食店)

全国・産業別業況DIの推移

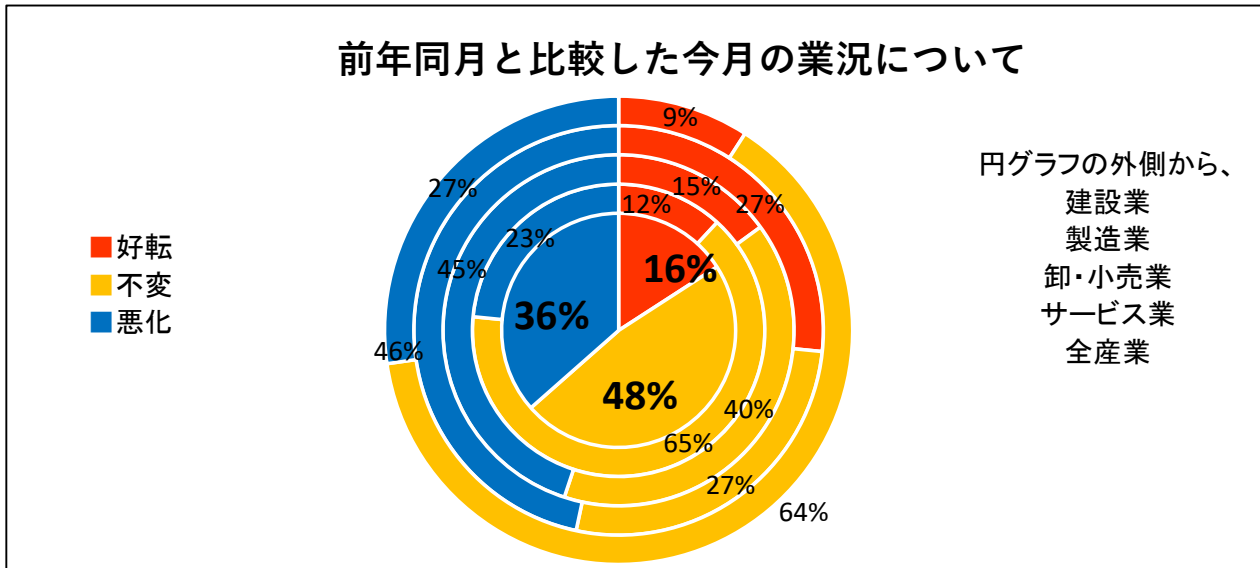
「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
11月	▲17.9	▲16.5	▲19.7	▲24.7	▲26.4	▲7.7
12月	▲18.0	▲14.7	▲21.6	▲23.4	▲24.0	▲9.9
1月	▲17.9	▲15.2	▲17.2	▲23.8	▲25.1	▲12.1
2月	▲16.8	▲13.6	▲13.6	▲23.5	▲24.8	▲13.0
3月	▲20.0	▲15.5	▲19.1	▲30.2	▲25.1	▲15.1
4月	▲18.5	▲17.7	▲23.0	▲23.1	▲23.5	▲8.6
見通し	▲27.0	▲27.3	▲31.5	▲29.1	▲28.9	▲20.2

令和8年（2026年）4月の動向

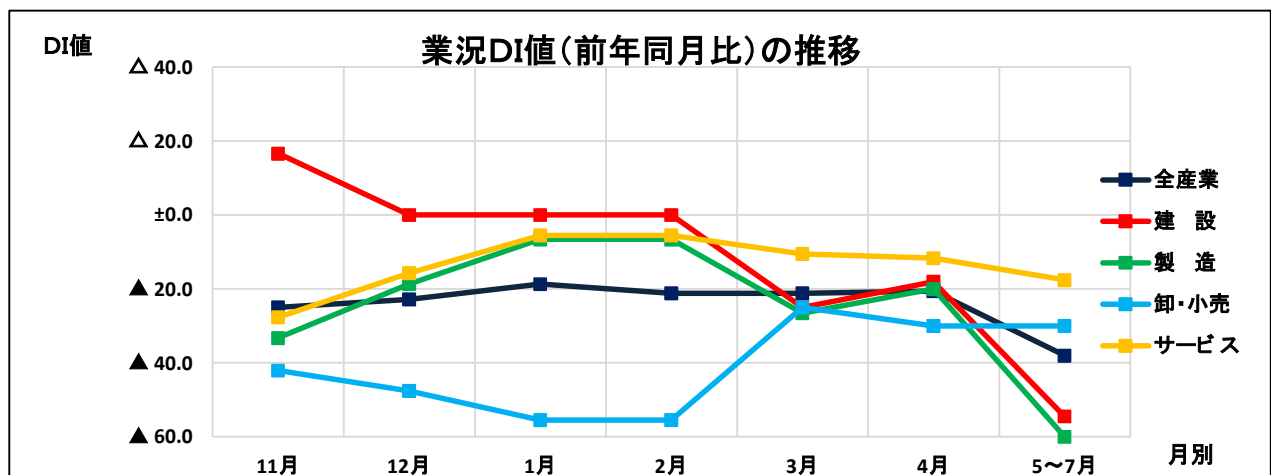
【業況について】

- 4月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲20.6（前月水準▲21.2）となり、マイナス幅が0.6ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月（5月から7月）の先行き見通しについては、全産業では、▲38.0（前月水準▲22.7）となり、マイナス幅が15.3ポイント拡大した。



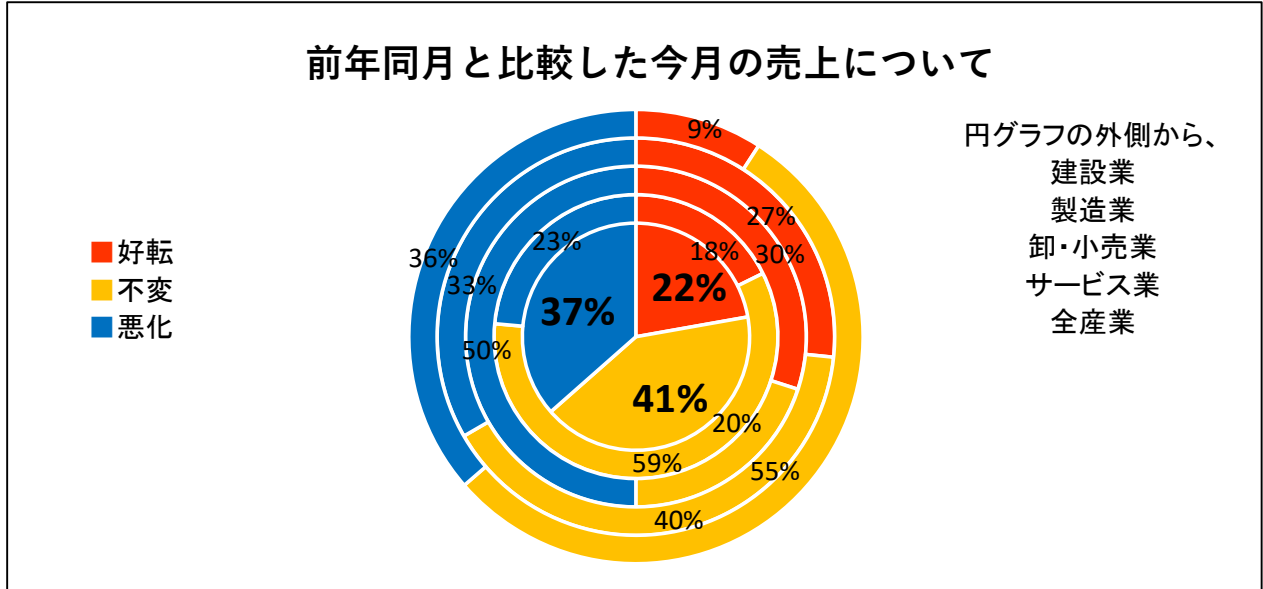
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和7年		令和8年				先行き見通し	
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5~7月 (4~6月)	
全産業	▲25.0	▲22.8	▲18.7	▲21.2	▲21.2	▲20.6	▲38.0 (▲22.7)	
建設	△16.6	±0.0	±0.0	±0.0	▲25.0	▲18.1	▲54.5 (▲16.6)	
製造	▲33.3	▲18.7	▲6.6	▲6.6	▲26.6	▲20.0	▲60.0 (▲26.6)	
卸・小売	▲42.1	▲47.6	▲55.5	▲55.5	▲25.0	▲30.0	▲30.0 (▲40.0)	
サービス	▲27.7	▲15.7	▲5.5	▲5.5	▲10.5	▲11.7	▲17.6 (▲5.2)	



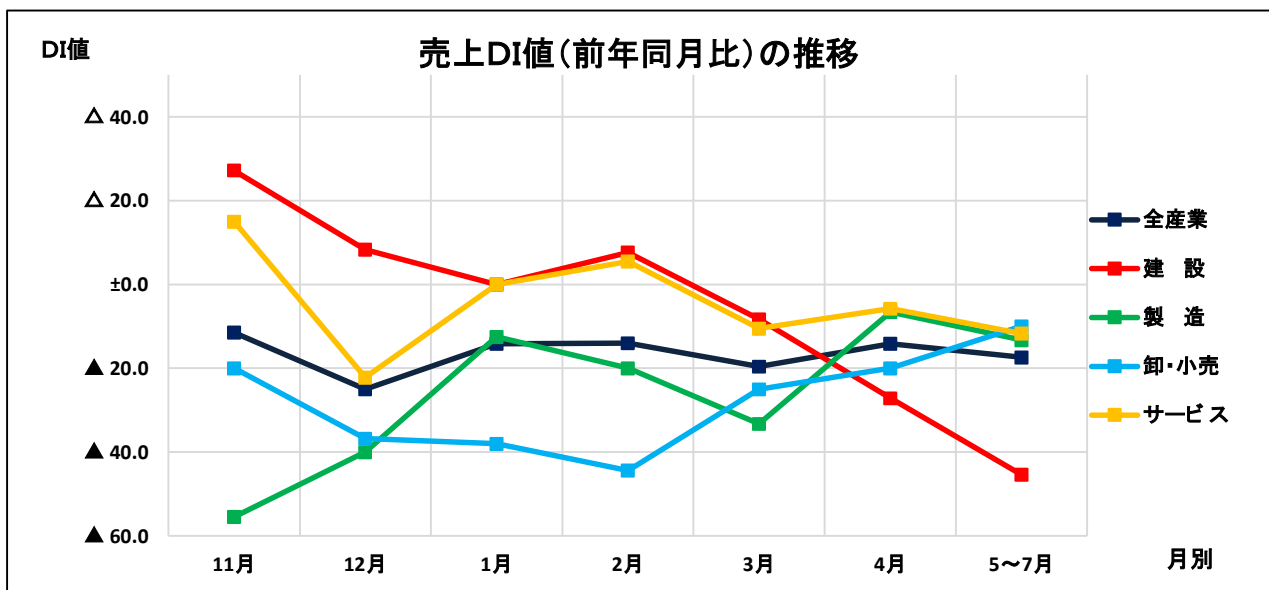
【売上について】

- 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.2 (前月水準▲19.6) となり、マイナス幅5.4ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.4 (前月水準▲12.1) となり、マイナス幅が5.3ポイント拡大した。



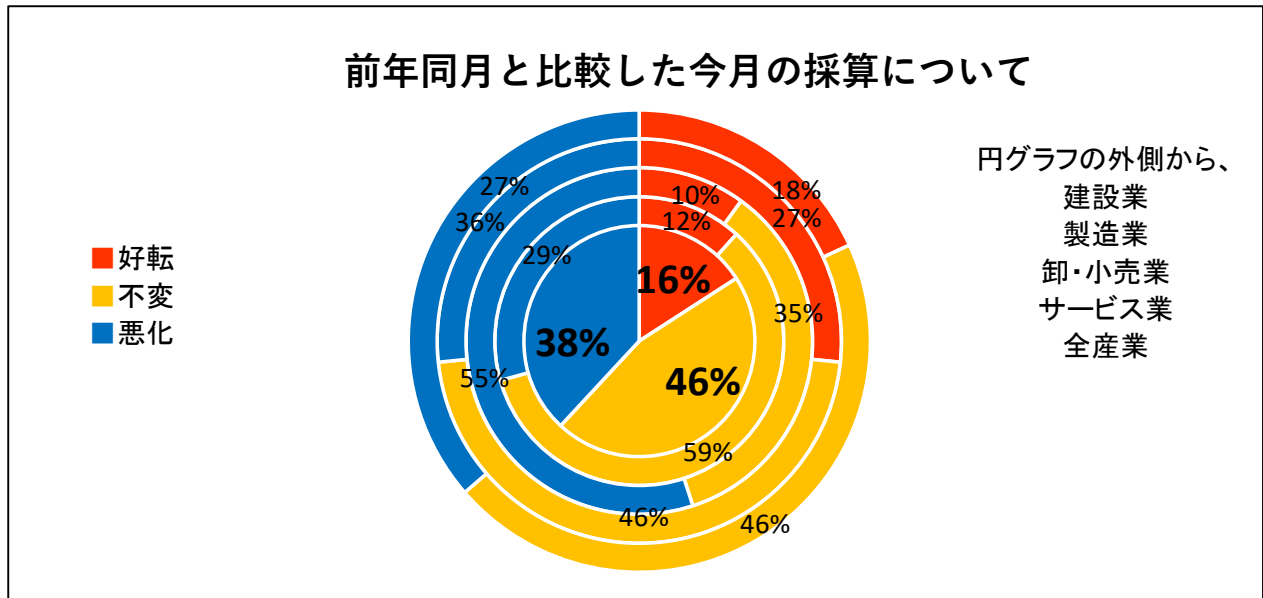
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和7年		令和8年				先行き見通し	
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5~7月 (4~6月)	
全産業	▲ 11.5	▲ 25.0	▲ 14.2	▲ 14.0	▲ 19.6	▲ 14.2	▲ 17.4 (▲ 12.1)	
建設	△ 27.2	△ 8.3	±0.0	△ 7.6	▲ 8.3	▲ 27.2	▲ 45.4 (±0.0)	
製造	▲ 55.5	▲ 40.0	▲ 12.5	▲ 20.0	▲ 33.3	▲ 6.6	▲ 13.3 (▲ 20.0)	
卸・小売	▲ 20.0	▲ 36.8	▲ 38.0	▲ 44.4	▲ 25.0	▲ 20.0	▲ 10.0 (▲ 25.0)	
サービス	△ 15.0	▲ 22.2	±0.0	△ 5.5	▲ 10.5	▲ 5.8	▲ 11.7 (±0.0)	



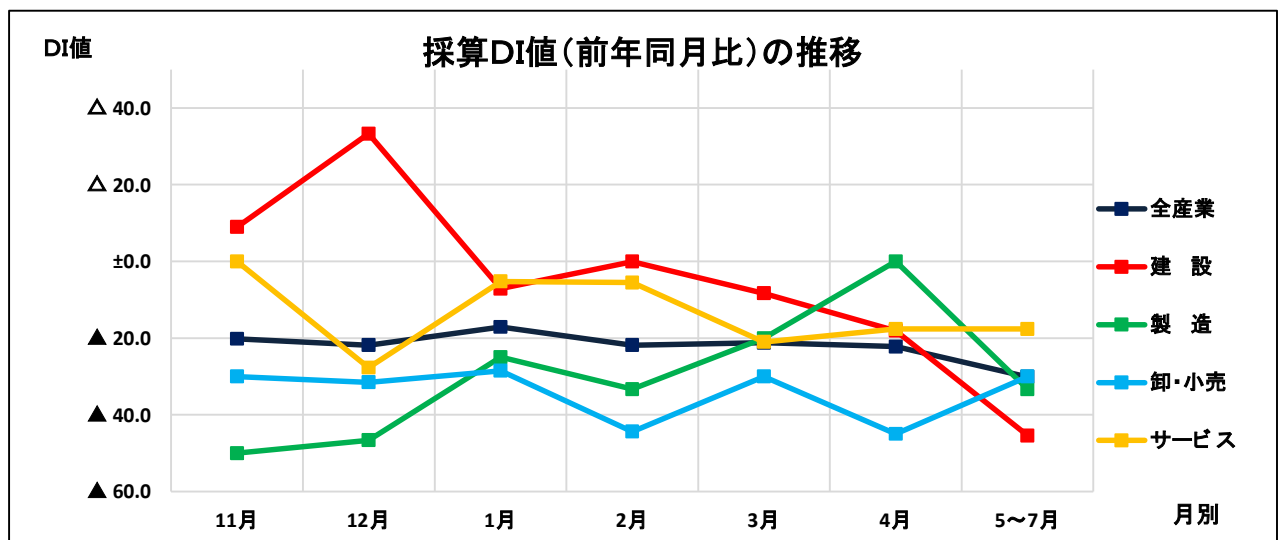
【採算について】

- 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.2(前月水準▲21.2)となり、マイナス幅が1.0ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲30.1(前月水準▲19.6)であり、マイナス幅が10.5ポイント拡大する見通しである。



採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

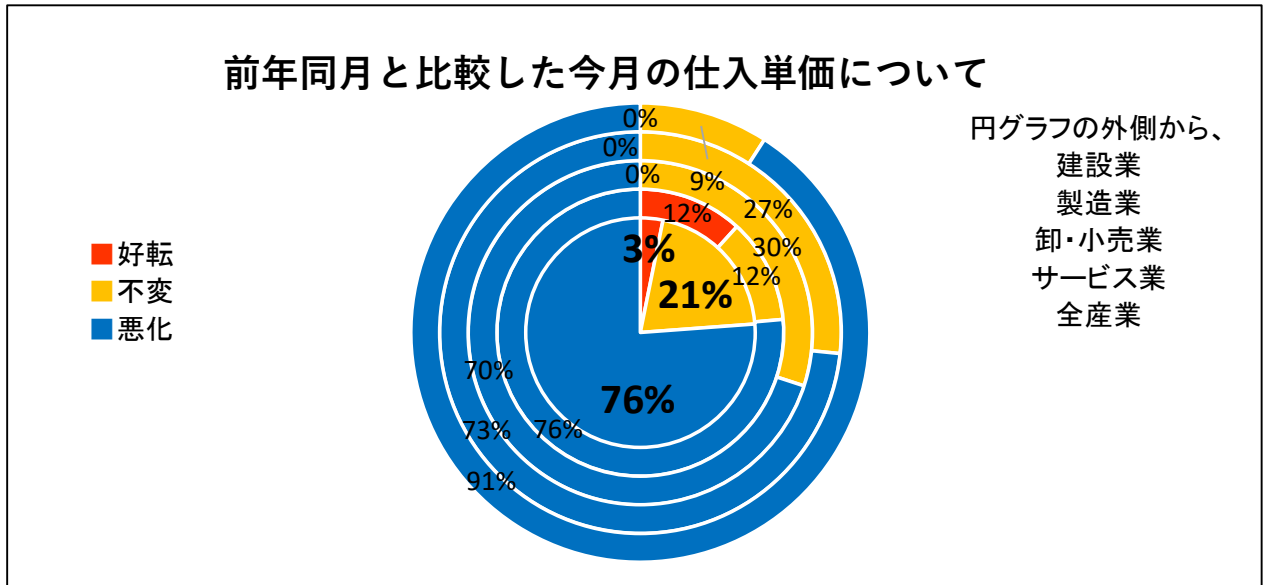
	令和7年		令和8年				先行き見通し	
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5~7月 (4~6月)	
全産業	▲20.2	▲21.8	▲17.1	▲21.8	▲21.2	▲22.2	▲30.1 (▲19.6)	
建設	△9.0	△33.3	▲7.1	±0.0	▲8.3	▲18.1	▲45.4 (△16.6)	
製造	▲50.0	▲46.6	▲25.0	▲33.3	▲20.0	±0.0	▲33.3 (▲26.6)	
卸・小売	▲30.0	▲31.5	▲28.5	▲44.4	▲30.0	▲45.0	▲30.0 (▲40.0)	
サービス	±0.0	▲27.7	▲5.2	▲5.5	▲21.0	▲17.6	▲17.6 (▲15.7)	



【仕入単価について】

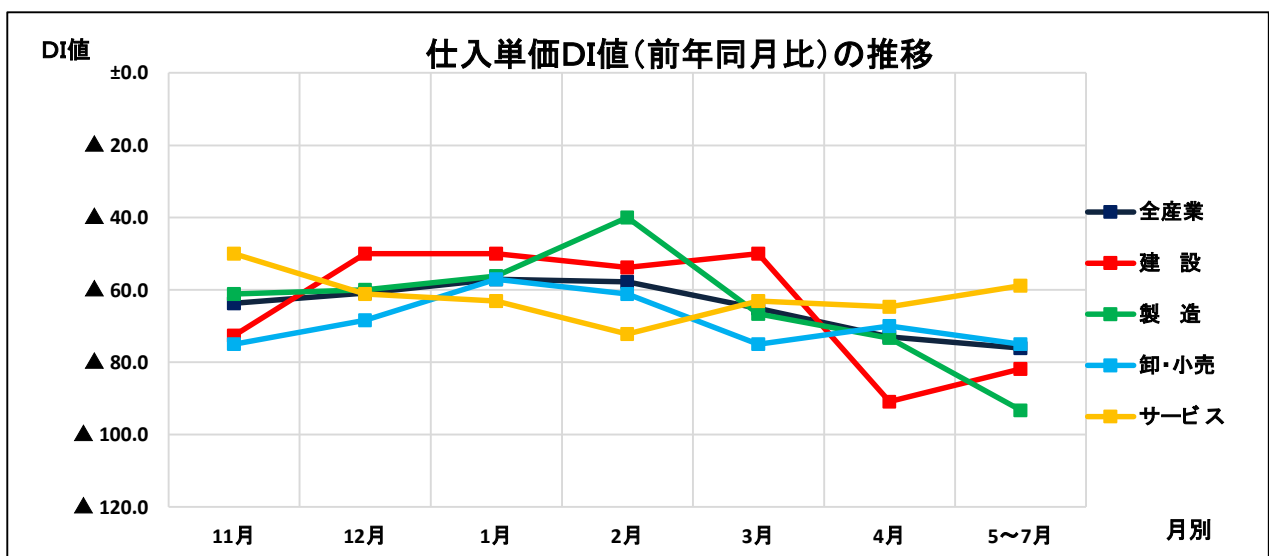
○4月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲73.0 (前月水準▲65.1)となり、マイナス幅7.9ポイント拡大した。

○向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲76.1 (前月水準▲65.1)となり、マイナス幅が11.0ポイント拡大する見通しである。



仕入単価D I 値 (前年同月比) の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

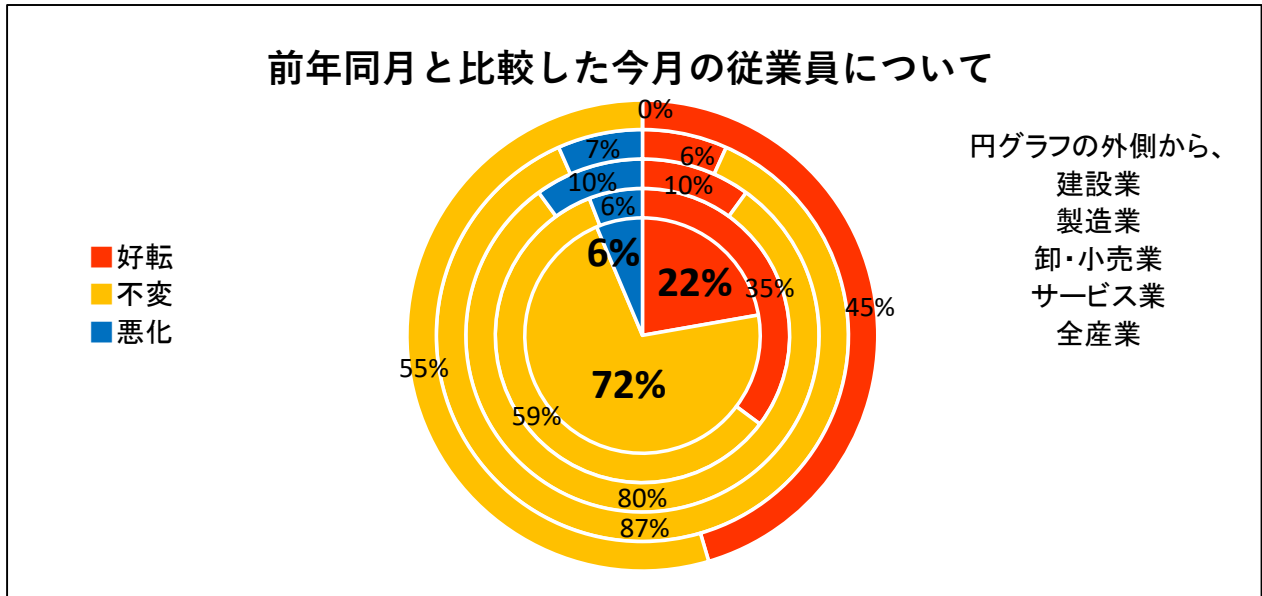
	令和7年		令和8年				先行き見通し	
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5~7月 (4~6月)	
全産業	▲63.7	▲60.9	▲57.1	▲57.8	▲65.1	▲73.0	▲76.1 (▲65.1)	
建設	▲72.7	▲50.0	▲50.0	▲53.8	▲50.0	▲90.9	▲81.8 (▲58.3)	
製造	▲61.1	▲60.0	▲56.2	▲40.0	▲66.6	▲73.3	▲93.3 (▲60.0)	
卸・小売	▲75.0	▲68.4	▲57.1	▲61.1	▲75.0	▲70.0	▲75.0 (▲70.0)	
サービス	▲50.0	▲61.1	▲63.1	▲72.2	▲63.1	▲64.7	▲58.8 (▲68.4)	



【従業員について】

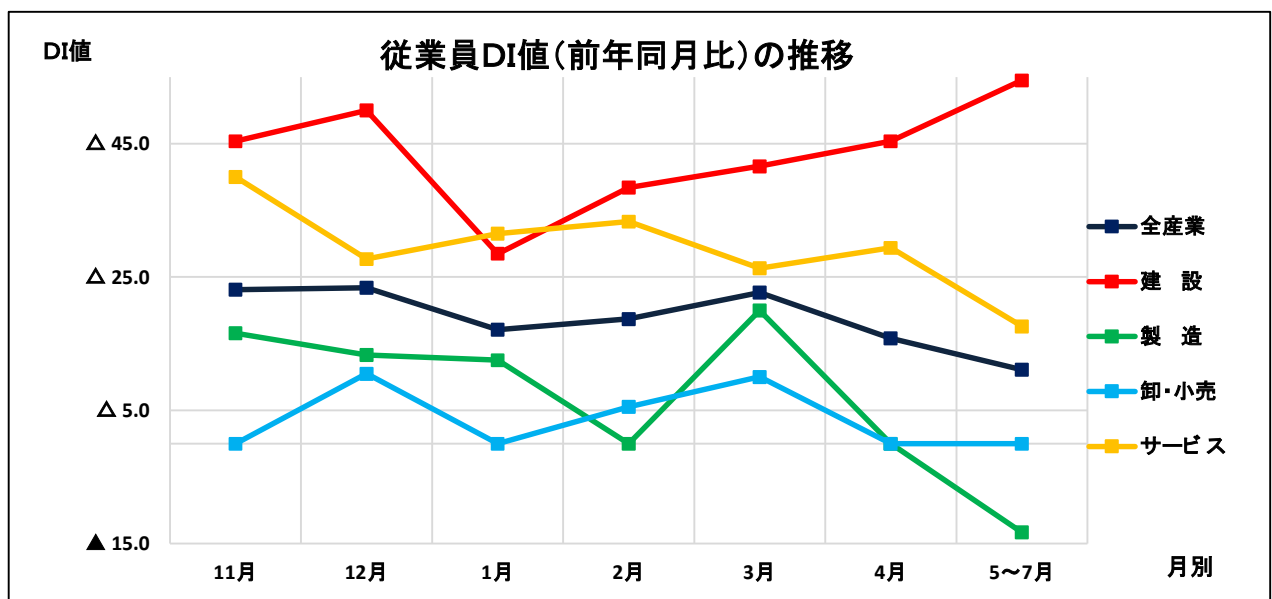
○4月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△15.8 (前月水準△22.7)となり、プラス幅が6.9ポイント縮小した。

○向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、△11.1 (前月水準△16.6)となり、プラス幅5.5ポイント縮小する見通しである。



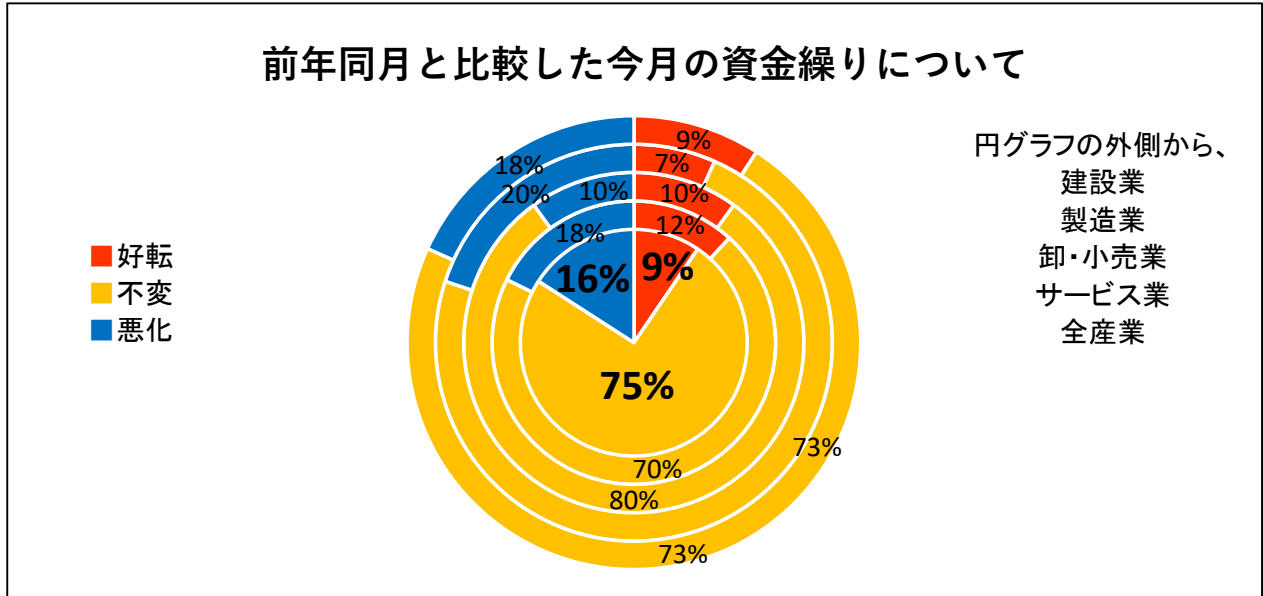
従業員D I 値 (前年同月比) の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	11月	12月	令和8年				先行き見通し	
			1月	2月	3月	4月	5~7月 (4~6月)	
全産業	△ 23.1	△ 23.4	△ 17.1	△ 18.7	△ 22.7	△ 15.8	△ 11.1 (△ 16.6)	
建設	△ 45.4	△ 50.0	△ 28.5	△ 38.4	△ 41.6	△ 45.4	△ 54.5 (△ 41.6)	
製造	△ 16.6	△ 13.3	△ 12.5	±0.0	△ 20.0	±0.0	▲ 13.3 (△ 13.3)	
卸・小売	±0.0	△ 10.5	±0.0	△ 5.5	△ 10.0	±0.0	±0.0 (±0.0)	
サービス	△ 40.0	△ 27.7	△ 31.5	△ 33.3	△ 26.3	△ 29.4	△ 17.6 (△ 21.0)	



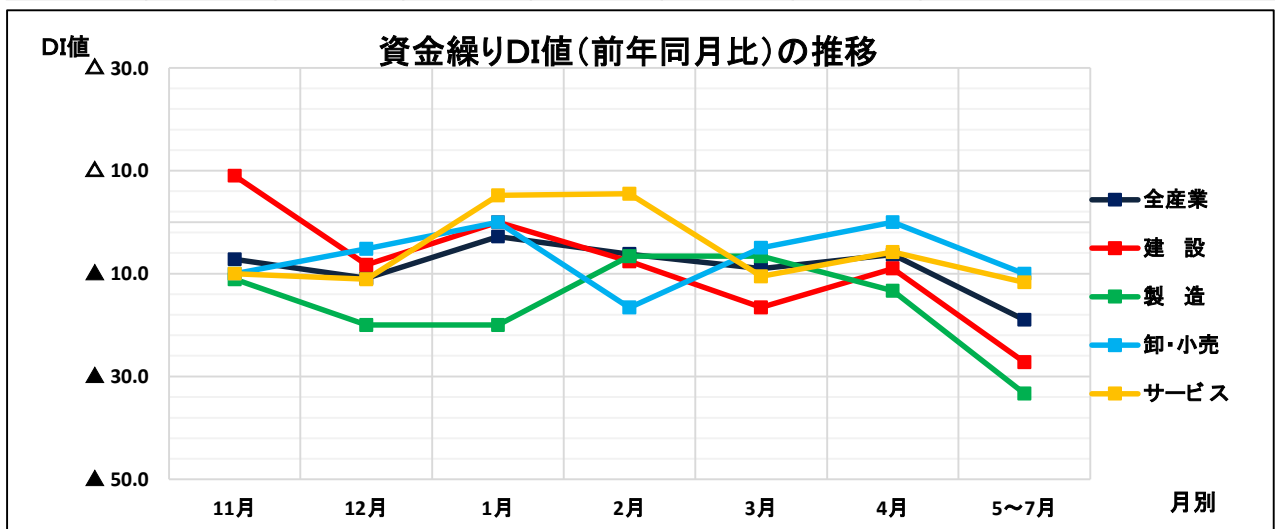
【資金繰りについて】

- 4月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲ 6. 3 (前月水準▲ 9. 0) となり、マイナス幅が2. 7ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲ 19. 0 (前月水準▲ 13. 6) となり、マイナス幅が5. 4ポイント拡大する見通しである。



資金繰りD I 値 (前年同月比) の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和7年		令和8年				先行き見通し	
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5~7月 (4~7月)	
全産業	▲ 7.2	▲ 10.9	▲ 2.8	▲ 6.2	▲ 9.0	▲ 6.3	▲ 19.0 (▲ 13.6)	
建設	△ 9.0	▲ 8.3	±0.0	▲ 7.6	▲ 16.6	▲ 9.0	▲ 27.2 (±0.0)	
製造	▲ 11.1	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 6.6	▲ 6.6	▲ 13.3	▲ 33.3 (▲ 20.0)	
卸・小売	▲ 10.0	▲ 5.2	±0.0	▲ 16.6	▲ 5.0	±0.0	▲ 10.0 (▲ 20.0)	
サービス	▲ 10.0	▲ 11.1	△ 5.2	△ 5.5	▲ 10.5	▲ 5.8	▲ 11.7 (▲ 10.5)	

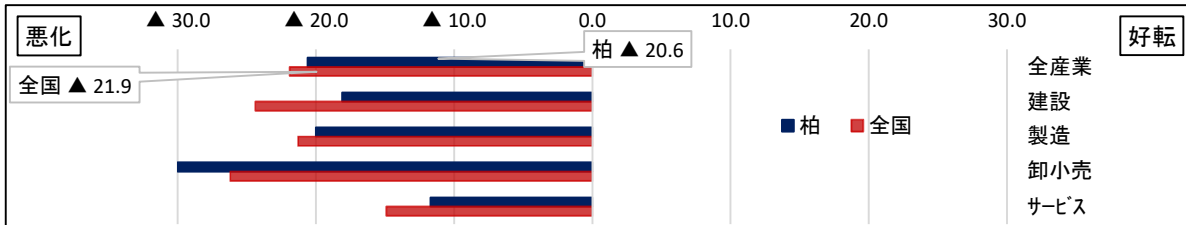


全国（CCI-LOBO）との比較

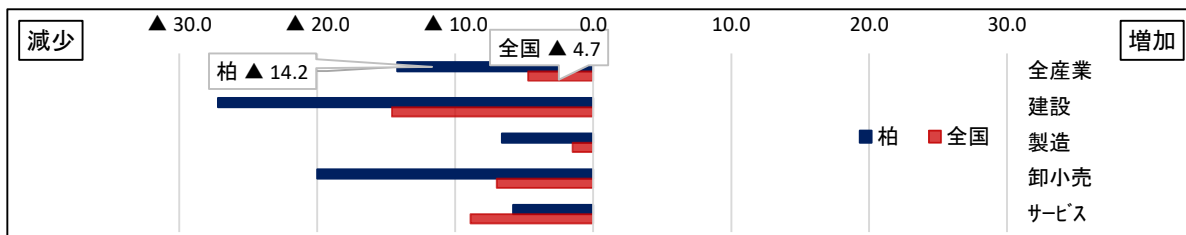
【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

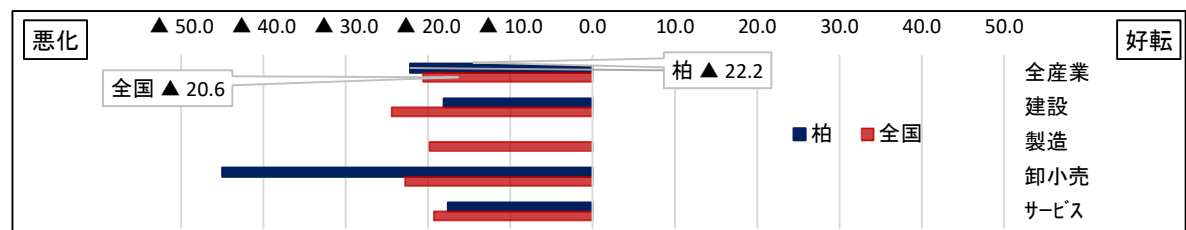
【業況D I】



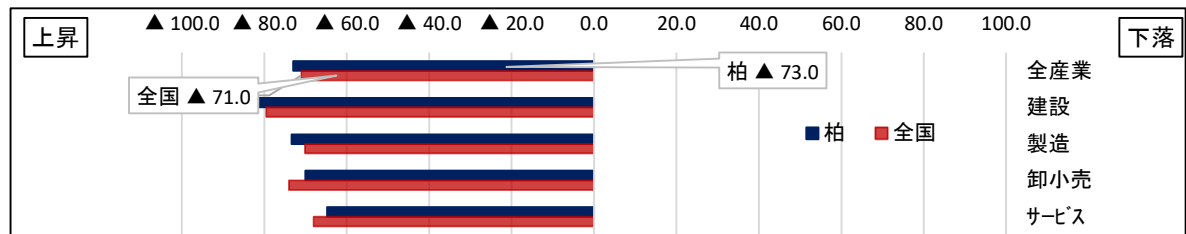
【売上D I】



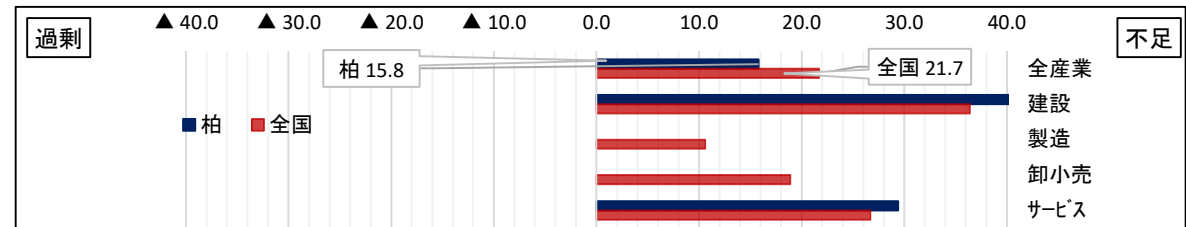
【採算D I】



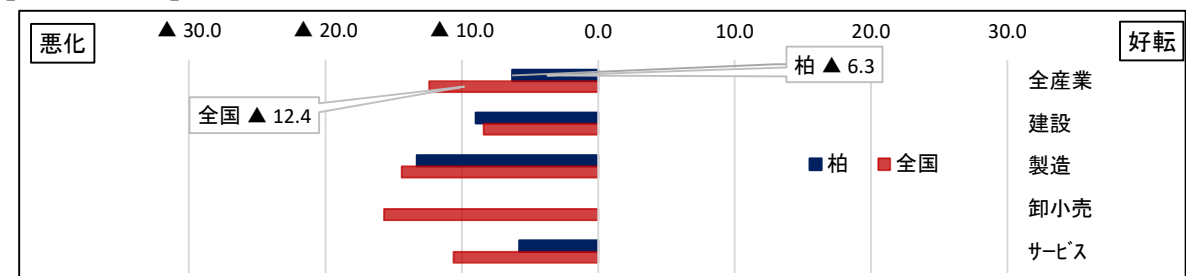
【仕入単価D I】



【従業員D I】



【資金繰りD I】



【業種別】業界内トピックス

業種別	概況	業種
建設業	中東の戦争によるホルムズ海峡封鎖により、石油を精製する時に出る成分のナフサが不足している。その影響で、塩ビ管が不足している。また、塗装の際に使用するシンナーが作れず75%の値上げ。TOTOのユニットバスも受注停止。その他、建築資材のアスファルトルーフィング、防水シート、コーキング材、スタイロフォーム、石膏ボード、サッシ等が値上げ、もしくは受注停止となり建設業界には大打撃となる見通し。	一般土木建築工事業
	世界情勢の影響で物価上昇とともに石油ショックの影響が不安定で先行きが見通せない。一部の半導体設備関連が動いているようで電気部品の調達納期にも影響が出てきている。	その他の機械・同部品製造業
	人手不足のため、昨年並みの仕事量がこなせず。お待ちいただいているお客様に申し訳ないです	畳工事請負・畳製造販売業
製造業	ホルムズ海峡封鎖の影響で材料メーカーの値上げ攻勢が半端じゃない。医療品容器の生産を止めないようにクライアントとの情報交換が頻繁に行われている。	プラスチック加工
	ホルムズ海峡の問題に端を発して仕入れ価格は上昇している。価格が上がっても手に入ればよいが入手できないと生産に大きな影響が出てくる。すべて価格に転嫁できないため利幅は小さくなる。従業員2名退職だが採用せず現在いる人たちの多能工化を図る。	金属製品
	レジン原料の素材の高騰により資材仕入先の変更などが発生。コスト増加が見込まれるが、いまのところ、生産計画には支障はなし。	酒類製造業
卸・小売業	*定期的な仕入値の上昇に加え、各種モノ不足のダブルパンチ。	その他の各種商品小売業
	3月より4店舗新規開店、5月6月も新規開店があり、客数は上昇、買い控えにより点数及び客単価の微減は続いているものの吸収は出来ている。春の値上げとイラン紛争による電気代高騰への対応(経費の適正化)は進めているがとても吸収できるレベルではない。5月以降は更なる経費の高騰が重くのしかかる、店舗運営上の無駄も見つけにくくなり、猛暑対応への空調経費の上昇も見込まれて採算ベースは苦戦が予測されている。売上は、食品が米騒動が1周回って大きく落ち込んでいるので厳しいが、季節の変わり目で衣料品(特に子供)、住居余暇のエアコン、化粧品品のUV対策、、薬局の皮膚関連薬が好調に推移している。	大型小売店
サービス業	販管費や内装資材や家電等のリフォーム費用の高騰で賃料改定を適時、心がけている。	不動産賃貸・管理業
	ホルムズ海峡封鎖の影響によるナフサ原料の高騰や品切れなどにより、食材高騰に続き消耗品の高騰の影響も出ている	日本料理
	中学1年生の動きが例年に比べてとりわけ遅い。個人的にだけでなく同業者の間でも、景気が回復しているとの実感は無いようだ。	学習塾
	公共事業に関する業況に大きな変化はなりが、弊社の課題は、従業員不足と業務効率化である。従業員不足を補うために従業員の追加手続きを検討中で、業務効率化についてはAI活用を含めたソフト技術のレベルアップを進めたいと考えている。	地質調査・地質コンサルタント

調査要領

回答期間

令和8年4月20日 ~ 令和8年5月7日

調査対象

柏市内173事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	173	63	36.4%
建設	38	11	28.9%
製造	44	15	34.1%
卸・小売	46	20	43.5%
サービス	45	17	37.8%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				